

平成18年度香川大学大学院及び専攻科修了式 学長告辞

本日、ここに多くの関係者の出席のもとに平成18年度香川大学大学院及び専攻科の修了式が行われることは我われにとって大きな喜びであります。大学院の博士課程と修士課程、並びに専攻科の修了生諸君、さらに論文博士の学位を授与された方、総計308名の諸君、おめでとう。今年は、工学研究科博士後期課程及び香川大学・愛媛大学連合法務研究科専門職学位課程の完成年度であり、正規の修了生を世に送り出すことになり、大変喜ばしく、また、記念すべき年であることをまず申し上げたいと思います。

博士の学位を受けた37名、修士の学位を受けた212名、専門職学位を受けた方49名、専攻科を修了した10名の皆さん、ほんとおめでとうございます。心からお祝申し上げます。君たちの勉学と研究に対するたいへんな努力と熱意が大きな成果となって実を結んだことを君たちと共に喜びたいと思います。

また、学生諸君の指導に暖かい情熱を持って当たってこられた先生方に心から敬意を表したいと思います。

君たちは、2年間又は3年間、課程によっては4年間であり。また修士課程から数えれば5年間の人もいると思いますが、いずれにしてもかなりの年数にわたる研究活動での実験や文献調査に昼夜を忘れて取り組んだこと、また期待するような研究成果がなかなか得られず、苦しい毎日を送ったことを思い出しているかも知れません。

しかし、今日ここにいる君たちは、それらの苦難を自分自身の力で乗り越え、君たちの取り組んだ研究成果を学会などで発表し、学会誌などに投稿し、それらを君たち自身の手で集大成し、学位論文などとしてまとめあげたのです。その成果として博士、又は修士、専門職学位という学位を手にすることができましたが、君たちの将来にとってもっとも大きな成果は“人生に対する自信”を得たことではないでしょうか。この成果は、君たちがどのような分野に進んだとしても、例えば研究以外の分野である行政や企業経営の分野に進んだとしても活かされるものであります。

また、博士や修士の学位論文をまとめる過程や専門職学位課程での課題研究を進める中では、多くのことを学んだと思いますが、それらの活動のなかで体得した課題発見力、課題解析力、課題解決力、さらにはコミュニケーション力をはじめとする表現力、あるいはチャレンジ精神は今後の研究生生活や企業などにおける社会活動において極めて大きな力になるものであり、ある意味では

一生活用できる資質であります。

君たちの大学院課程におけるもうひとつの大きな経験は、学術研究における世界の最先端を実感していることです。歴史的に見れば当たり前のことですが、学術研究に限らずあらゆる分野の最先端は常に動いています。そのスピードや動き方は様々ですが、留まっていることはありません。立ち止まってじっとしていると先端はどんどん進んで行きます。とりわけ、学術研究の分野では今日は最先端であっても、明日には最先端ではありません。これらのことは、継続的な学習と努力が必要であることを我われに教えています。

私は、君たちが大学院の課程において、人生に対する自信と課題探求力という2つのものを得たと言いましたが、それらは手入れをせずにそのままほって置くと必ず質が低下します。自信は継続的な努力に裏打ちされないと、残念ながらその力を発揮できません。また、課題探求力もほって置けば、その能力は次第にさがります。日常的なスキルアップが必要です。君たちは、今までとほぼ同じ分野や少し違う分野、さらには今までの専門とはかなり違う分野で活躍することが期待されています。私は、君たちが明日から置かれるであろう新しい環境のなかで最善の努力を継続されることを何よりも期待しております。

さて、東京での初雪が3月16日であったと新聞に載っていました。もちろん観測史上初めてのことでした。このことが地球上の環境とどのような関係にあるのかはともかくとして、現在、解決しなければならない課題が世界にはたくさんあります。例えば、地球環境の劣化や人口増加、貧困層の拡大です。新聞やテレビでは鳥インフルエンザなどの疾病や巨大災害が話題になっています。これらの21世紀がかかえる様々な課題は、自然科学や社会科学が単独で解決できる課題ではなく、両者が融合し、連携しなければ解決できない課題であります。

そのような課題に新しい視点で挑戦し、解決の方法を提示できるのは君たち若者の特権であり、喜びであると思います。私は、君たちの挑戦に大きな期待を持っています。また、連合法務研究科の修了生には乗り越えなければならないハードルがせまっていますが、祝杯を一緒にあげられるのを楽しみにしております。

本日、学位を取得された諸君が、新しい環境のなかで努力を継続し、大きな花を咲かされることを期待し、告辞といたします。

平成19年3月23日

香川大学長 一井 眞比古